



SII

学校だより

小豆沢学区のエリア《志村二小・志村四小・志村二中》



校訓：まじめ

令和7年12月8日

校長 山口 敦 No. 10

「七味とうがらし」



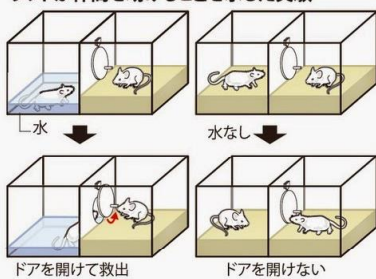
校長 山口 敦

だいぶ前の話になりますが、バイクで奥多摩方面をツーリングしていたとき、一台のバイクが転倒しており、その横に人が立っていた横を通りました。大変だと思い少し先で停車して、すぐに転倒したバイクのところへ駆けつけました。運転手さんはほとんど傷もなかったようなのですが、バイクはガードレールに食い込みなかなか引き起こせない状況でした。2人してバイクを引き起こそうと四苦八苦していると、バイクに乗った人たちが次々と止まり、助けに加わってくれました。中には、後続車の交通整理をしてくれる人もいました。その後、なんとかバイクのエンジンが掛かり、運転手さんは全員にお礼を言っていました。見知らぬライダーが転倒している場面に遭遇した場合、多くのライダーは自然と停車し、支援を行うのが当たり前のようでした。

関西学院大学の研究グループは、ラットを用いた実験で、共感（相手の立場に立ち、その人の感情や考えを理解しようとする）に基づくと考えられる援助行動を実験で示しました。

その実験内容は、水に浸かって苦しむラット（プール側）と、隣の濡れていない部屋のラット（陸側）をペアにします。プール側のラットが陸側の部屋に移動するには、陸側のラットにドアを開けてもらう必要があります。陸側のラットは、プール側のラットが窮地に立たされているときのみ、ドアを開けて助け出しました。ラットが窮地の仲間を助ける行動を実験的に示し、共感に基づく可能性が示されたとしています。

ラットが仲間を助けることを示した実験



皆さんの隣にいる友達が、何かに悩んでいたたり苦しんでいるとしたらどうしますか。助けてあげたいと思っても、その人の本当の悲しみや苦しきはわからないし、その人に代わって解決することはできません。

私たちができることは、その人の状況に身を置き、自分事として痛みや悲しみを感じて手を差し伸べることです。「共感する力」があれば、友達の思いに近づくことができます。

しかし、世の中、共感力のある人ばかりではないような気がします。かなり前になりますが、朝

日新聞の「折々のことば」に「人生、七味とうがらし」ということばがありました。

「人生、七味とうがらし」 ～ある占師～

うらみ、つらみ、ねたみ、そねみ、いやみ、ひがみ、やっかみ。人を翻弄（ほんろう）するこれら七つの性（さが）は、いずれも自他の比較に由来する。他人と較（くら）べる中でしか自己を見ることのできない人の宿痼（しゆくあ）であり業（ごう）であるが、これと正面から向きあうことで人生の味わいもいっそう深まると、テレビ東京系の連続ドラマ「ラストチャンス 再生請負人」（原作・江上剛）に登場する謎の占師は言う。

この「七味」の原因を作っているのは、人との比較で劣等感と優越性を持つことが原因だと言われています。劣等感をもっている人は、問題を人のせいにして、努力を放棄し、その状況から逃げ出そうとします。優越感をもっている人は、他者より優位にいたい気持ちが強く人前で強がる人や、少しでもよく見せようと必死になる人です。両方とも、いじめにつながるような感情ですね。

うらみやねたみ、ひがみなどは多分誰もが持っている感情ではないでしょうか。同時に他人からこういった感情を持たれるということでしょう。こういった感情と正面から向き合いつつも、人として多くを学びながら共感力を高めていくことが、多くの人が幸せになることではないでしょうか。

毎年12月4日～12月10日の一週間は人権週間で、最終日の12月10日は「人権デー」です。人権とは、「みんなが幸せになる権利」のことです。みんなが幸せになるには、相手の立場に立って物事を考えること、お互いの違いを認め合うことが大切です。お互いに信頼しあえる「まじめ」な学校を目指していきましょう。

最後に、ひとつ皆さんに問題を出します。

ある若者が、銭湯で、右腕の肘から先がない男性を見かけて勇気を出して声をかけました。「あの、背中を流しましょうか？」その男性は若者の好意に甘えたそうです。「すみません、お願いします。」若者はゴシゴシと自分のタオルで力を込めて背中をこすると、お湯を流し、じゃあと言ってサッと行ってしまった。

その出来事を男性は後で友達に話しました。「この前銭湯で若者に背中を流してもらったよ。」すると、友人は尋ねました。「嬉しかったんだろ？」「ああ、でも、もちろん背中を流してもらうのもありがたかったんだけど、ホントはね・・・」と言って男性が話したことは何か。分かりますか？。「想像力・共感力・思いやり」と口で言うのは簡単ですが、なかなか一筋縄ではいきません。

地域面接



10月30日（木）から一週間、9年生対象の地域面接を行いました。延べ20名の地域の方がボランティアで面接官をしてくださいました。面接における所作や、受け答え方など、実践を通して学ぶことができました。先生以外の大人に見てもらうため、緊張している生徒たちでしたが、面接官からは、「生徒は、しっかりしていますね。」と褒めていただきました。地域の方々に支えられていることに、改めて感謝いたします。

生徒会主催 放課後学習教室



期末考査前の3日間、生徒会の主催で他学年との交流を通して、学校生活の充実を図る目的で、放課後学習教室を実施しました。

生徒会役員と学級委員が先生役となり、分からないところを友達に聞くなど学年を越えた交流が見られました。

板橋区平和の集い

「板橋平和のつどい」が11月10日（月）に文化会館で実施されました。

参加者全員による「板橋区平和都市宣言」の朗読あと、中学生平和の旅に参加した生徒による広島・長崎の体験発表を行いました。一人一人が派遣を通して感じたことや体験したことを報告し、戦争の悲惨さや平和の大切さについて、来場していた多くの方々に伝えることができていたと思います。



地域清掃ボランティア



11月16日（日）、町会主催によるクリーン作戦が行われ、50名以上の生徒が参加しました。これは、地域美化活動の一環として毎年行っているもので、生徒は町会ごとに分かれて道端に落ちているゴミを火ばさみなどを使いながら丁寧に拾い集めていました。地域の方からねぎらいや感謝の言葉をいただき、参加した生徒の皆さんには地域を愛する心が高まったことでしょう。

ルールメイキング

生徒が、校則の見直しに主体的に参画することで、生徒自身がその根拠や影響を考え、身近な課題に対し、自ら判断し行動できる力を育成することを目的に、昨年度からルールメイキングに取り組んでいます。校則を見直したり、変えたりすることだけではなく、生徒や教員同士で対話を重ね、みんなの納得解をつくっていくプロセスを大切にしています。具体的には、髪型・防寒着について見直しを行っています。先日の生徒朝礼で生徒会からその進捗状況について説明がありました。今月から防寒着としてダウンジャケットの着用が可能となったことも報告されました。これから校則がどんなふうになっていくのか、とても楽しみです。

活躍する志二中生！

- 板橋区英語のつどいスピーチの部
第1位 9-2 Oくん
- 第41回全国硬筆コンクール
優秀特選 8-3 Kさん
- 文化発表会ビブリオバトル
優勝 8-2 Nさん

【12月の主な予定】

12月	8	月	朝礼
	12	金	コミュニティ・スクール委員会
	15	月	学級活動の日・学校公開 生徒朝礼
	16	火	避難訓練
	19	金	専門委員会
	22	月	安全指導
	25	木	終業式 給食あり
	26	金	冬季休業日（始）

